

# 島根県の地震

令和元（2019）年10月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

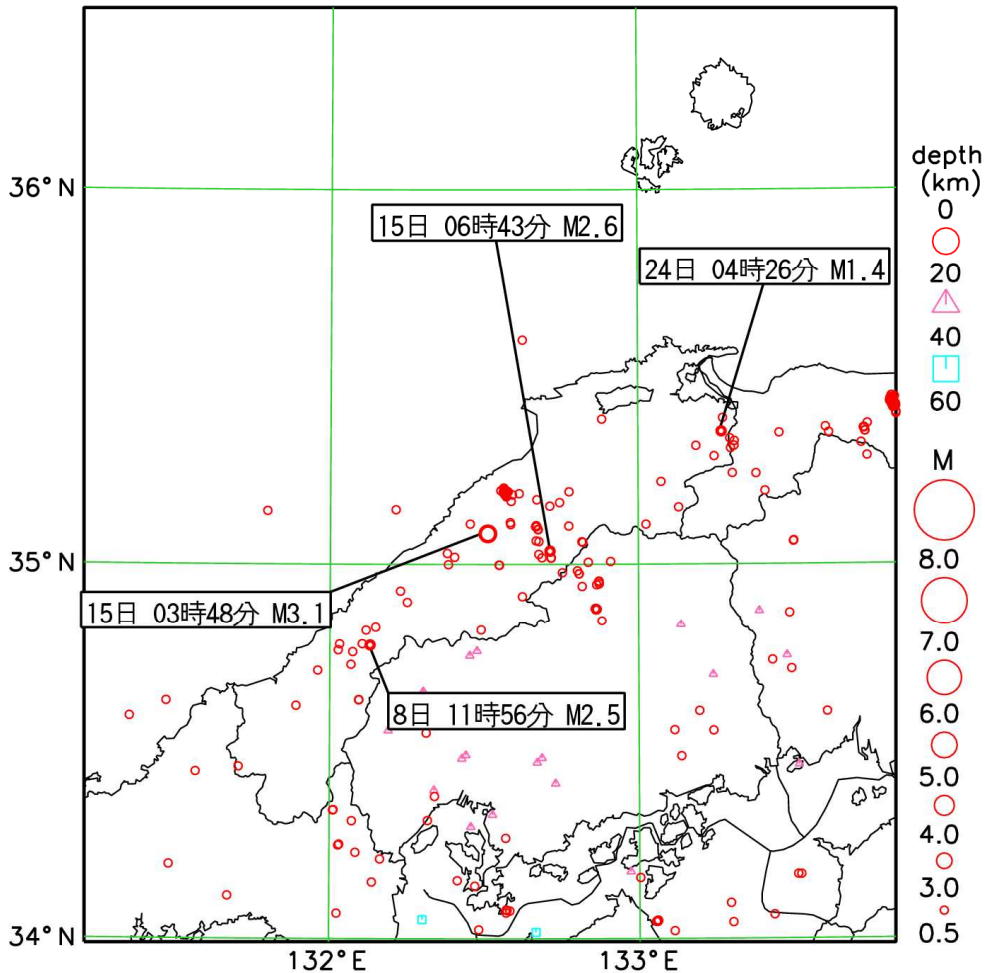
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

## 島根県およびその周辺地域の地震活動 2019年10月1日～31日

2019 10 01 00:00 -- 2019 10 31 24:00

N=257



### [概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は257回（9月は215回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、5回でした。

7日08時02分 安芸灘の地震（深さ50km、M4.3：地図範囲外）により、益田市で震度2、雲南市・浜田市・大田市・江津市・川本町・津和野町・邑南町・吉賀町で震度1を観測しました。また、広島県、愛媛県、山口県で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

8日11時56分 島根県西部の地震（深さ10km、M2.5）により、浜田市で震度1を観測しました。

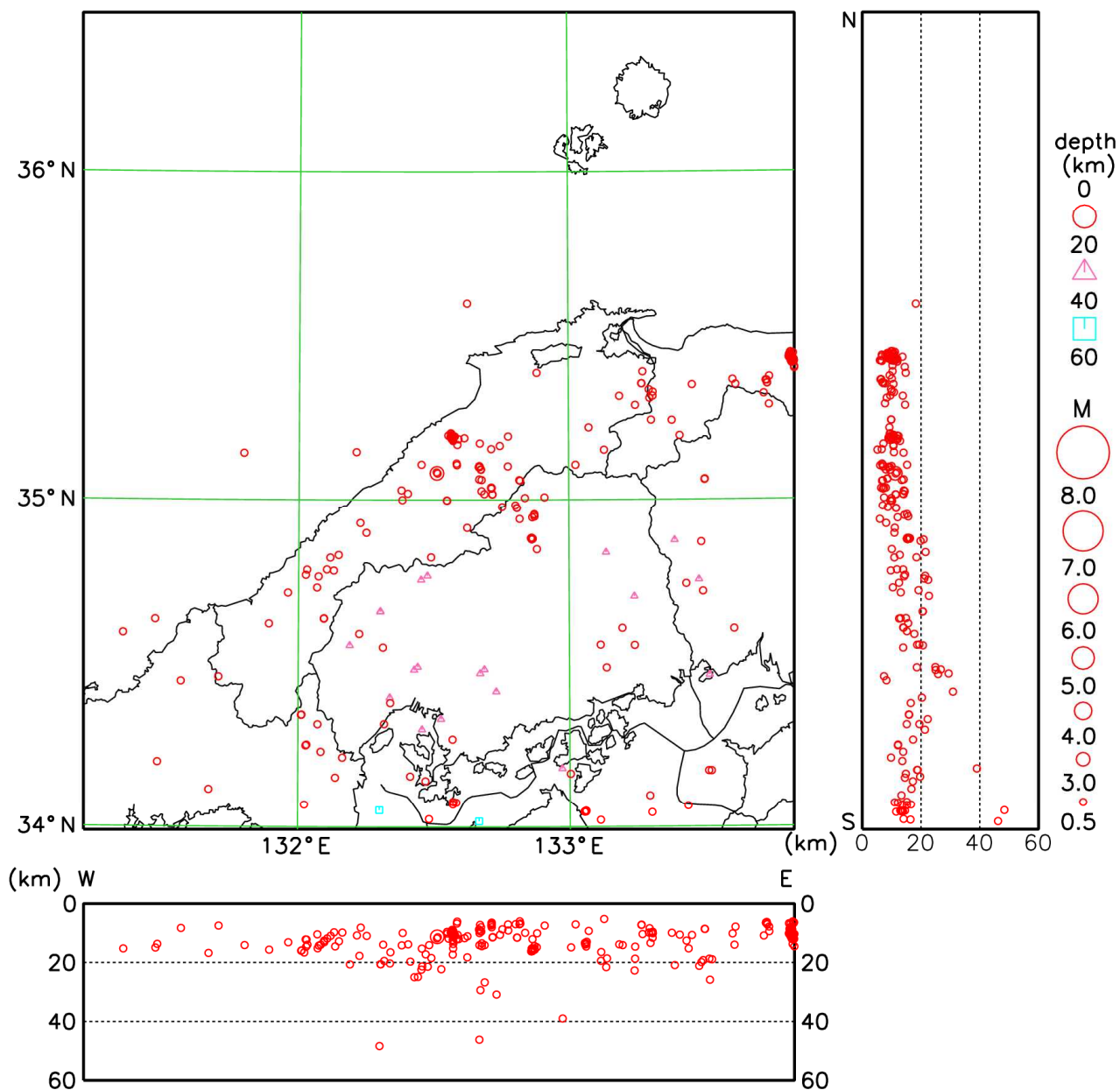
15日03時48分 島根県西部の地震（深さ11km、M3.1）により、大田市・川本町・美郷町で震度1を観測しました。

15日06時43分 島根県西部の地震（深さ7km、M2.6）により、飯南町で震度1を観測しました。

24日04時26分 島根県東部の地震（深さ7km、M1.4）により、安来市で震度1を観測しました。

# [断面图]

2019 10 01 00:00 -- 2019 10 31 24:00



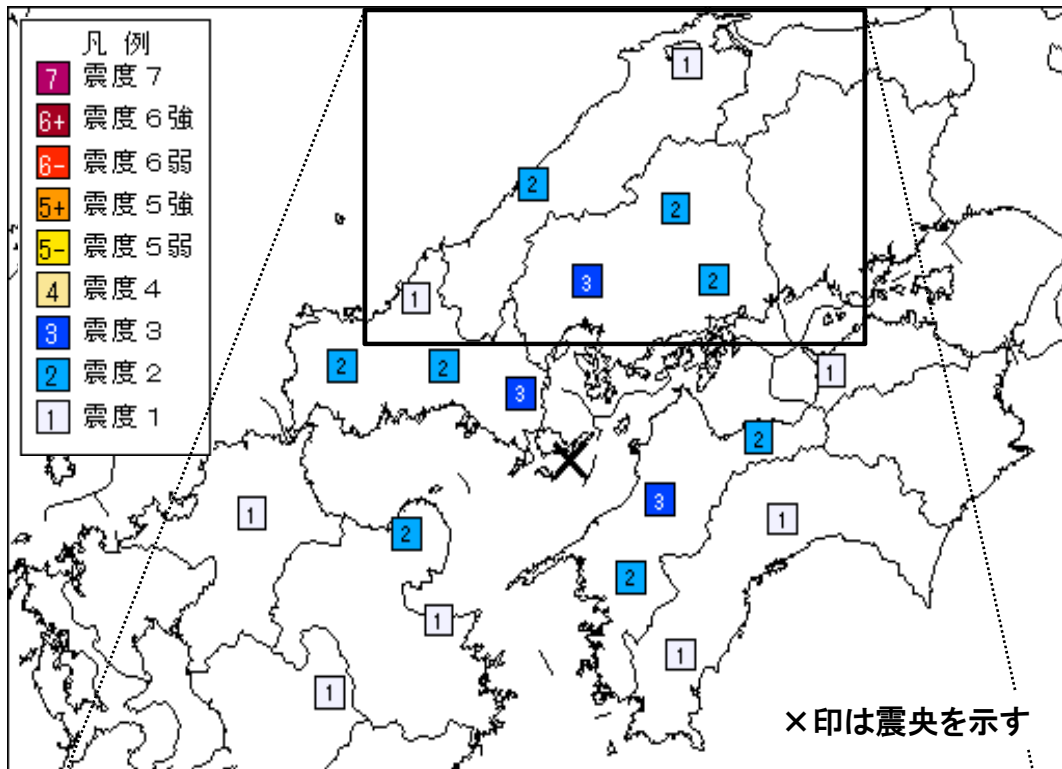
## 10月の島根県内の地震表（震度 1 以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019年10月07日08時02分	安芸灘	33° 50.1' N	132° 21.4' E	50km	M4.3
----- 地点震度 -----					
島根県	震度 2：益田市常盤町＊ 震度 1：雲南市三刀屋町三刀屋＊, 浜田市三隅町三隅＊, 益田市水分町＊ 益田市美都町都茂＊, 大田市仁摩町仁万＊, 江津市桜江町川戸＊, 川本町川本＊ 津和野町後田＊, 津和野町日原＊, 邑南町淀原＊, 邑南町下口羽＊, 邑南町瑞穂支所＊ 吉賀町六日市＊, 吉賀町柿木村柿木＊				
2019年10月08日11時56分	島根県西部	34° 46.9' N	132° 07.8' E	10km	M2.5
----- 地点震度 -----					
島根県	震度 1：浜田市三隅町三隅＊				
2019年10月15日03時48分	島根県西部	35° 04.8' N	132° 30.6' E	11km	M3.1
----- 地点震度 -----					
島根県	震度 1：大田市仁摩町仁万＊, 大田市温泉津町小浜＊, 川本町川本＊, 島根美郷町粕淵＊				
2019年10月15日06時43分	島根県西部	35° 02.1' N	132° 42.7' E	7km	M2.6
----- 地点震度 -----					
島根県	震度 1：飯南町下赤名＊				
2019年10月24日04時26分	島根県東部	35° 21.2' N	133° 16.3' E	7km	M1.4
----- 地点震度 -----					
島根県	震度 1：安来市伯太町東母里＊				

・地点名の後に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

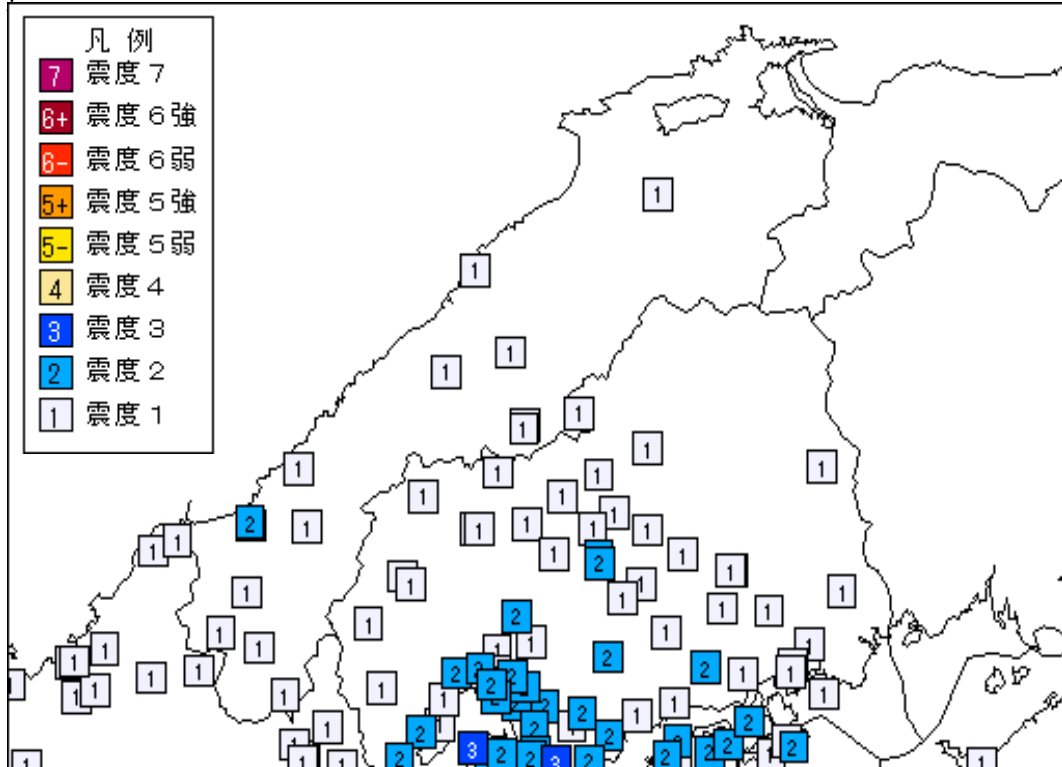
# 【地域震度分布図】

2019年10月7日08時02分 安芸灘



# 【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図

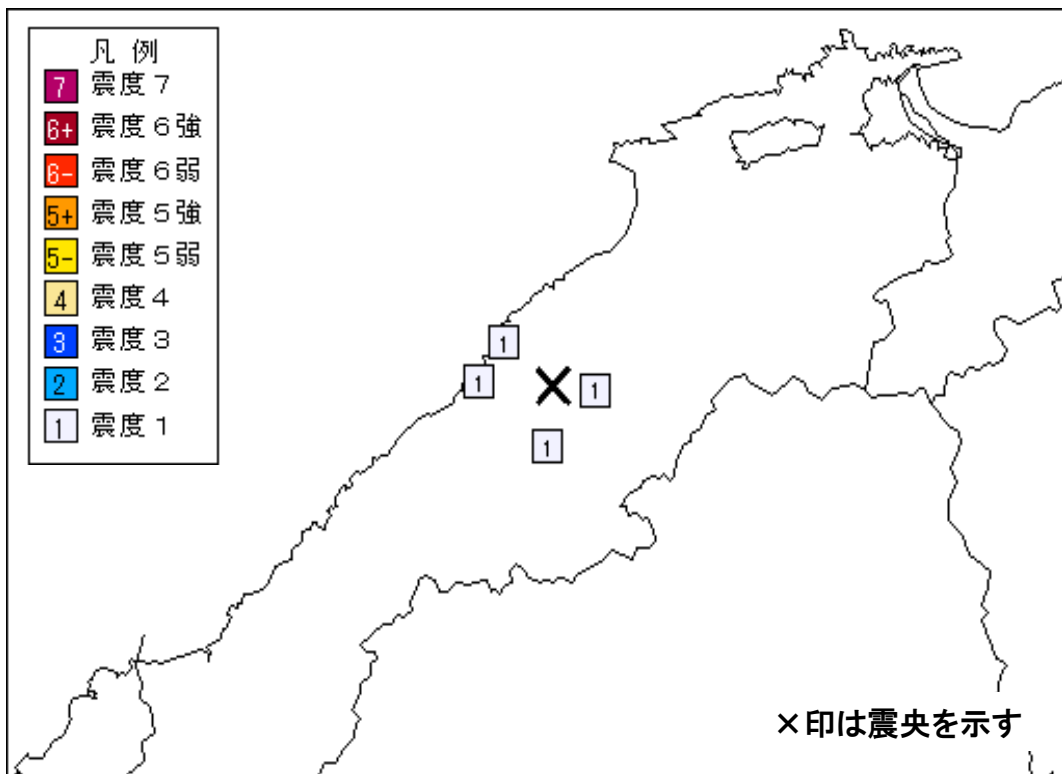


# 【観測点震度分布図】

2019年10月8日11時56分 島根県西部



2019年10月15日03時48分 島根県西部

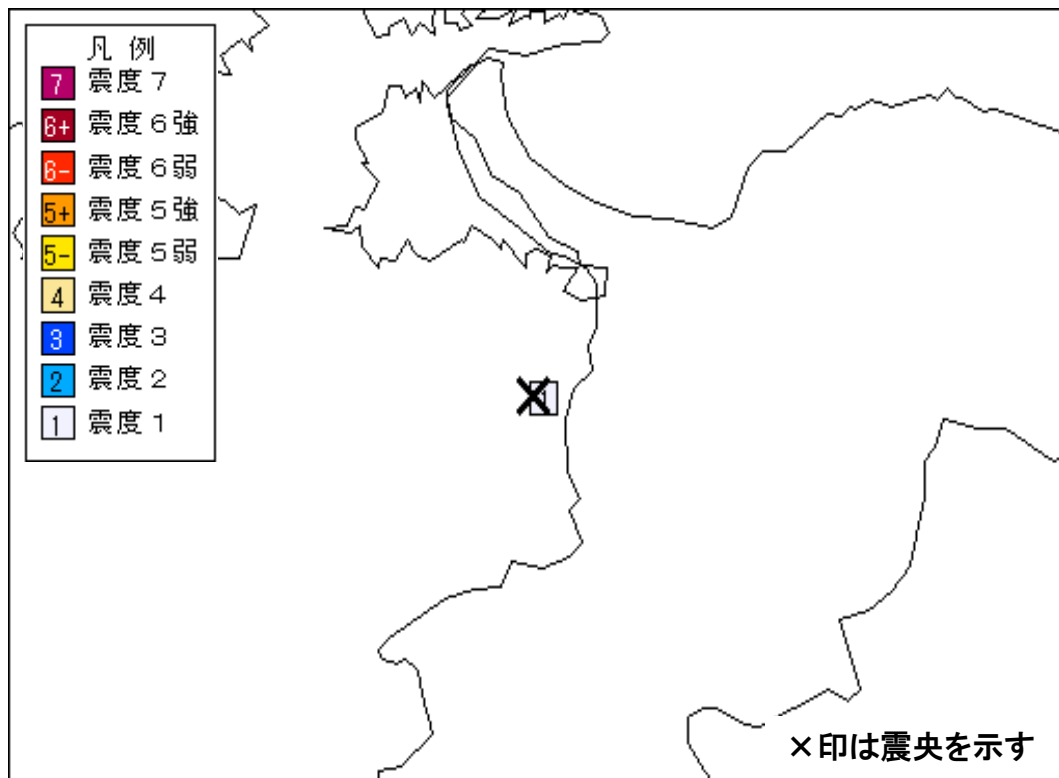


# 【観測点震度分布図】

2019年10月15日06時43分 島根県西部



2019年10月24日04時26分 島根県東部



## 地震一口メモ

### 「ひずみ計」

気象庁では、南海トラフ沿いの地震活動を監視するため、「ひずみ計」という機器を東海地域に設置しています。これは、プレート境界のゆっくりすべり等に伴うごくわずかな岩盤の伸び縮みを捉えるためのもので、気象庁が発表する「南海トラフ地震に関連する情報」等に利用されています（計 27 地点（図 1）のひずみ観測点のデータを解析し、特定の現象が認められた場合、情報作成・発表に向けての調査が開始されます）。

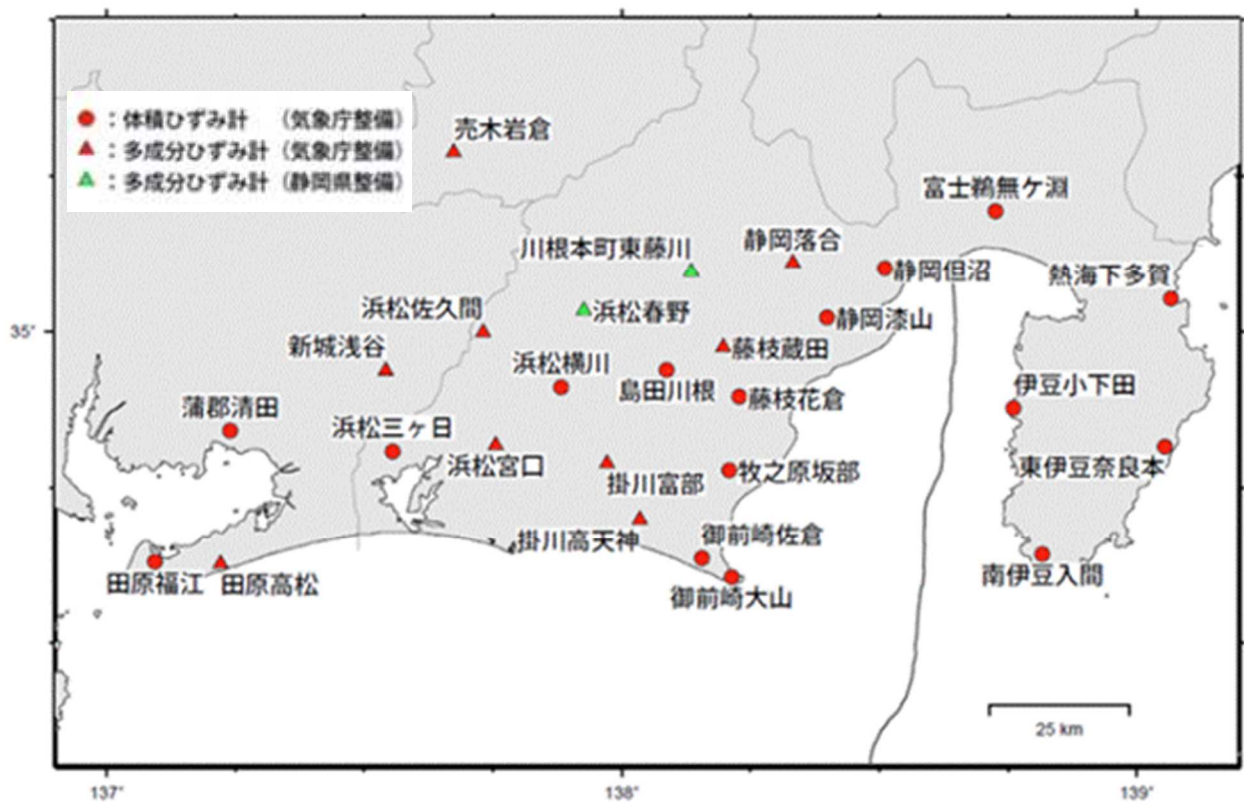


図 1 情報発表に用いるひずみ計観測点

ひずみ計は、ボアホールと呼ばれる直径 15 センチメートル程度の縦穴を数百メートル掘削し、その底に円筒形の検出部が埋設されています。

地下の岩盤は、周囲からの力を受けて、ごくわずかですが伸び縮みします。ひずみ計は、その検出部が岩盤と同じように変形することで、岩盤の伸び縮みを検出します。その精度はきわめて高く、岩盤の伸び縮みを 10 億分の 1 の相対変化まで測定します。これは、小中学校にあるプール（長さ 25 メートル、幅 10 メートル、深さ 1.5 メートル）



ル程度)に水を満たし、直径1センチメートルのビー玉を入れた時に生ずる、ごくわずかな体積の変化でも検出できる精度です。

気象庁が設置しているひずみ計には、体積ひずみ計と多成分ひずみ計の2種類があります(図2)。

体積ひずみ計は、岩盤の伸び縮みによる検出部の体積の変化(体積ひずみ)を測定します。一方、多成分ひずみ計は、検出部の45度ずつ異なる4つの方位の直径の変化(線ひずみ)を測定します。体積ひずみ計ではひずみの大きさの変化を知ることができますが、多成分ひずみ計ではひずみの大きさに加えてその方向ごとの変化を知ることができます。

各観測点の観測データは、常時、専用回線で気象庁に集約され、前述したとおり南海トラフ地震に関連する情報の発表のために使われています。

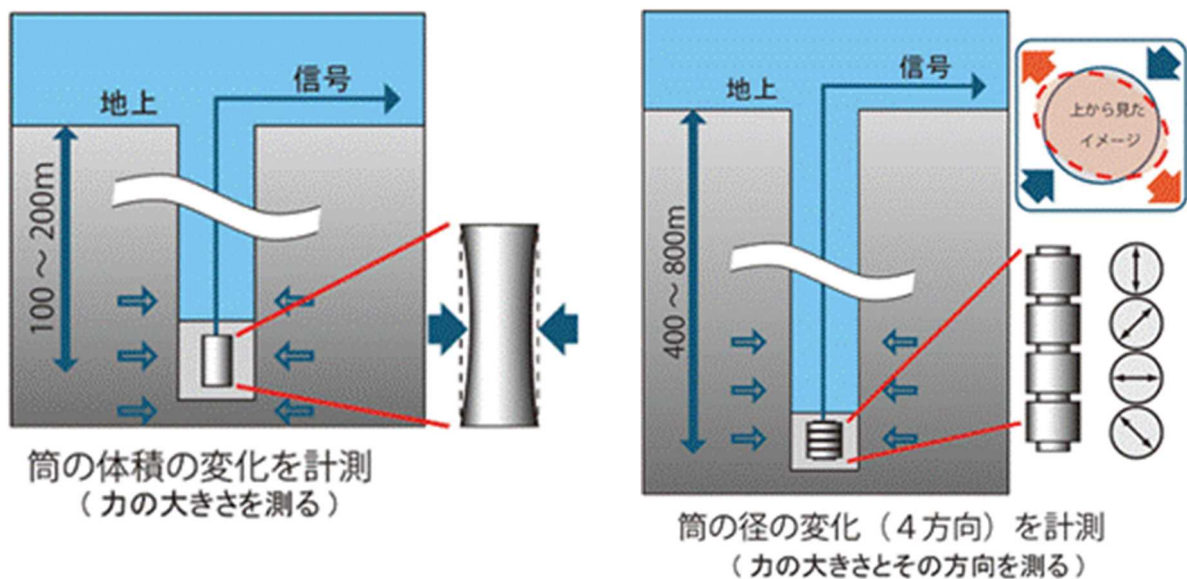


図2 体積ひずみ計(左)、多成分ひずみ計(右)

「南海トラフ地震に関連する情報」の種類及び発表条件

[https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info\\_criterion.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html)